

クリスマスおめでとうございます。

先週から思いもよらない急激な降雪により、一気に真冬の雰囲気になりました。除雪が追い付かず、高速道路も長らく止まり、交通のまひの状態が続きました。停電もあったとのことです。寒い中、不安の中、皆様お元気にお過ごしでしたでしょうか。

今日は待ちに待ったクリスマスの礼拝であり、今年一年の最後の礼拝でもあります。引き続くコロナ禍の暗い影、豪雨災害の恐怖、ウクライナへのロシアの侵攻と長引く攻撃、広範囲に及ぶ物価高騰の大波に加え、円高による物価高等々、今年は本当に社会不安が爆発的に増大する年であり、先行きの見通しの全く効かない一年でした。

今日の御言葉もありましたように、クリスマスは暗闇に光る神様からの光が輝く出来事です。まさに先行きの見えない不安の暗闇を進む私たちへの福音、良き知らせとして今日の御言葉を味わいたいと願います。

まず第一に、当時イスラエルは大国であるローマ帝国に飲み込まれていました。

全世界の人口調査をせよ。その当時の世界とは、すなわちローマ帝国であるということが出来るくらいにローマは力を持っていました。その皇帝が、自分の統治するあらゆる民に対して、膨大な人数の人々に対して、住民登録をするから自分の生まれの地へと行くがよいと命令するや、数千万人の人たちが移動をしました。今や大国の指導者となれば、何億、十何億という人たちを動かすわけです。

自らの統治する国の基礎を建て、国威を発揚するかのようにしてなされたこの一斉の人口調査でしたが、このローマ皇帝のなしたことは、ミカ5章に、次のように書かれていたことが成就するためなのでした。

ミカ5:2 しかしそレヘム・エフラタよ、あなたはユダの氏族のうちで小さい者だが、イスラエルを治める者があなたのうちから／わたしのために出る。その出るのは昔から、いにしえの日からである。

そして、この帝国の人口調査は、イエス様がお生まれになった時の良い歴史的な目印となりました。時の社会に4500万人をも様子と考えられるローマの皇帝さえも、神様の御手の内にありました。

しかしそうとも知らずにイスラエルの人たちには根強いメシア(救い主)待望の祈りがありました。シメオンやアンナがそのよい例です。

2:25 その時、エルサレムにシメオンという名の人がいた。この人は正しい信仰深い人で、イスラエルの慰められるのを待ち望んでいた。また聖霊が彼に宿っていた。

2:26 そして主のつかわす救主に会うまでは死ぬことはないと、聖霊の示しを受けていた。

人々は救いを待ち望んでいました。しかしそれはローマの支配からの独立という政治的なものであったのかもしれません。それくらい、時の時代には不安があり、救いが待ち望まれていました。

しかしマリアの賛歌の中にもありました、時は薄暗く、神の民の中でも弱肉強食のような力関係がありました。ルツ記の落穂拾いのような美しい光景は感じられません。

1:50 そのあわれみは、代々限りなく／主をかしこみ恐れる者に及びます。

1:51 主はみ腕をもって力をふるい、心の思いのおごり高ぶる者を追い散らし、

1:52 権力ある者を王座から引きおろし、卑しい者を引き上げ、

1:53 飢えている者を良いもので飽かせ、富んでいる者を空腹のまま帰らせなさいます。

1:54 主は、あわれみをお忘れにならず、その僕イスラエルを助けてくださいました、

1:55 わたしたちの父祖アブラハムとその子孫とを／とこしえにあわれむと約束なさったとおりに」。

そして祭司ザカリヤの口によって語られた通りに。

1:71 わたしたちを敵から、またすべてわたしたちを憎む者の手から、救い出すためである。

1:72 こうして、神はわたしたちの父祖たちにあわれみをかけ、その聖なる契約、

1:73 すなわち、父祖アブラハムにお立てになった誓いをおぼえて、

1:74 わたしたちを敵の手から救い出し、

1:75 生きている限り、きよく正しく、みまえに恐れなく仕えさせてくださるのである。

憎む者の手。それは政治的に蹂躪していたローマの手というだけではなく、エペソ 6:12 にありますように、「血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる惡の靈」をも指します。ザカリヤは自分の不信仰の思い、思い上がりと傲慢さを突き付けられ、沈黙の中、自らの弱さを徹底的に見つめ、自らが神の敵ともなり得るその罪のおぞましさを思い、そこに足を引っ張って転落させようと試みる惡の存在、敵の存在を悟りました。挫折と糺余曲折との中にあって、「生きている限り、きよく正しく、みまえに恐れなく仕えさせてくださる」ということが彼のこの上なく願うことでした。

この神の国の中にもはびこる弱肉強食の思い、人を押しのけても自分が上に立ちたいという思い、人のことなど考えもせずに自分のことでまっしぐらになる人間性について、イエス様は弟子たちに重々警告をなさいました。

マタイ 16:22 すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめ、「主よ、とんでもないことです。そんなことがあるはずはございません」と言った。

16:23 イエスは振り向いて、ペテロに言われた、「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。

マタイ 20:20 そのとき、ゼベダイの子らの母が、その子らと一緒にイエスのもとにきてひざまずき、何事かをお願いした。

20:21 そこでイエスは彼女に言われた、「何をしてほしいのか」。彼女は言った、「わたしのこのふたりのむすこが、あなたの御国で、ひとりはあなたの右に、ひとりは左にすわれるよう、お言葉をください」。

20:22 イエスは答えて言われた、「あなたがたは、自分が何を求めているのか、わかっていない。わたしの飲もうとしている杯を飲むことができるか」。彼らは「できます」と答えた。

20:23 イエスは彼らに言われた、「確かに、あなたがたはわたしの杯を飲むことになろう。しかし、わたしの右、左にすわらせることは、わたしのすることではなく、わたしの父によって備えられている人々だけに許されることである」。

20:24 十人の者はこれを聞いて、このふたりの兄弟たちのことで憤慨した。

20:25 そこで、イエスは彼らを呼び寄せて言われた、「あなたがたの知っているとおり、異邦人の支配者たちはその民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。

20:26 あなたがたの間ではそうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、

20:27 あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。

20:28 それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」。

あなたがたの間ではそうであってはならない。あなたがたの間ではそうであってはならない。この言葉は、イエス様が手塙にかけて寝起きを共にした弟子たちさえも容易に異邦人の支配者たち、また「偉い人」のように振る舞いたがるということを示しています。いつもイエス様を模範としていなければ、私たちも容易に正しい道を踏み外すことになります。

そのような時代、羊飼いたちは人々から見下される職業の人たちでした。「食べる前には手を洗う」ということや、安息日を守り、礼拝を守ることもしばしば出来なかったからです。

マタイ 15:2 「あなたの弟子たちは、なぜ昔の人々の言伝えを破りますか。彼らは食事の時に手を洗っていません」。

寒い夜半の寂しいところにて、彼らは夜、野宿をしながら交代で羊を守る番をしていました。

イエス様がご自身を羊飼いと例えられたことも、そうしてみれば味わい深く、意味深いことですね。

その厳しい働きの最中、真っ暗闇の夜中に何が起こったのでしょうか。

2:8 さて、この地方で羊飼たちが夜、野宿しながら羊の群れの番をしていた。

2:9 すると主の御使が現れ、主の栄光が彼らをめぐり照したので、彼らは非常に恐れた。

その夜中の闇の中にまぶしい光が照り輝いたのです。

「勝ち組、負け組」、人を差別し蔑み、誰が上だとか、誰が下だとか、自分は偉いとか、あいつは駄目だとか、主流とか反主流とか、人々がしのぎを削って上に突き進もう、邪魔な人たちなど追い落とそうというような空気が充満している闇の中に、羊飼いたちに、その濃い闇の中に光が上ったのです。

しかし彼らは非常に恐れました。それが良き知らせだとは思いませんでした。それが救いだとは思いませんでした。主の栄光の光が疲れ切った、混沌とした、錯乱しきった世に到來したのに、それを救いととらえることは出来ませんでした。それ位に彼らの希望はついえてしまっていたのかもしれません。それくらい彼らの周りの闇は彼らを、光を、希望を忘れ去らせるまでに彼らを強く支配していたのかもしれません。

コロサイ 1:13 神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった。

(新改訳聖書) 1:13 神は、私たちを暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。

ルカ 1:78 これはわたしたちの神のあわれみ深いみこころによる。また、そのあわれみによって、日の光が上からわたしたちに臨み、

1:79 暗黒と死の陰とに住む者を照し、わたしたちの足を平和の道へ導くであろう」。

しかし御使いは言いました。

2:10 御使は言った、「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。

恐れるな、すべての民に与えられる大きな喜びがあるよ！！

これが福音です。良き知らせです。喜ばしき訪れます。

2:11 きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。

この救い主がおられれば、もう恐れることはない、おののくことはない。救い主がおられるのだから。この方こそ主なる方。王の王、主の主。

主権者、権力者であられ、神であられるのにもかかわらず、「仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるため」に来られたお方。何と恐ろしい、畏れ多いお方なのでしょうか。何と畏れ多い愛なのでしょうか。

このお方にあって、私たちにあっては、恐怖が取り除かれ、このお方の贖いの愛によって、恐れは畏れに変えられるのです。

この方こそ主、この方こそ主、この方こそまことの王です。救い主、すべての民に与えられる大きな喜びです。

2:12 あなたがたは、幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見るであろう。それが、あなたがたに与えられるしるしである」。

羊飼いたちを最初の礼拝者にお定めになられた神様は、いとへりくだられししるしを御子イエス様にお与えになられました。それが家畜小屋で飼い葉おけの上で眠るお姿です。

マタイ 8:20 イエスはその人に言われた、「きつねには穴があり、空の鳥には巣がある。しかし、人の子にはまくらする所がない」。

宿屋に居場所はなく、そして失われた人たちを探し続け、ついには町の外の骸骨の丘の十字架につかれた主。このお方のご生涯は、この飼い葉おけの上に眠るという姿に、しるしとして現れています。そしてその卑尊なるお姿が、貧しく疲れ果てた人たちの救いのしるしとなるのです。

2:13 するとたちまち、おびただしい天の軍勢が現れ、御使と一緒にになって神をさんびして言った、

2:14 「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」。

天使たちがこの卑遜なる主のお姿を耳にした途端、留めることができずに天の総勢の贊美が始まりました。

天では神に栄光、地には御心にかなう人に平和。

平和と調和が乱され続けているこの世界の中で、平和を得るために御心にかなうことをお願いが必要であると教えられます。自分のしたいがままにするまでは、平和と調和を得ることが出来ません。天に完全な調和と栄光が満ちているように、私たちも主に栄光を期し、御心を求め続けて行きたいのです。

2:15 御使たちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼たちは「さあ、ベツレヘムへ行って、主がお知らせ下さったその出来事を見てこようではないか」と、互に語り合った。

2:16 そして急いで行って、マリヤとヨセフ、また飼葉おけに寝かしてある幼な子を捜してた。

2:17 彼らに会った上で、この子について自分たちに告げ知らされた事を、人々に伝えた。

2:18 人々はみな、羊飼たちが話してくれたことを聞いて、不思議に思った。

2:19 しかし、マリヤはこれらの事をことごとく心に留めて、思いめぐらしていた。

2:20 羊飼たちは、見聞きしたことが何もかも自分たちに語られたとおりであったので、神をあがめ、またさんびしながら帰って行った。

マリヤはこれらのこととことごとく心に留めて、守って、保存して、覚えて、宝物を大事にしまっておくように、心の中に大切にしていました。

私たちにとっての光、希望、恐れを取り除くもの、民全体の大きな喜び、救い主、この方こそ主。御子キリスト。私たちが宝物のようにして心にいつも留めている大きな喜びがここにあります。主のご降誕、ありがとうございます。クリスマスおめでとうございます。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。主イエス様のご降誕を心より感謝いたします。ローマ帝国の支配の強権の中、弱肉強食のすさんだ世の中に、あなたは、いとへりくだりししるしの御子を世の救いとして与えて下さいました。大きな恐れの中にある疲れ果てた民に、その暗闇の中に光を昇らせ、御使いは慈しみ深い神様への贊美を奏で、

御使いの口を通して力強く「恐れるな」、「大きな喜びを告げる」と語つ
て下さいました。あなたのお言葉は必ず成ると信じます。子供からお年
寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリ
ストに出会うことができますようにお願いいたします。私たちの家族
と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。

アーメン